

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2018-B1-004

(西暦) 2019年 3月 12日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

2018年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

進学先 国立大学法人 東北大学大学院 医学系研究科保健学専攻 家族支援看護学領域
がん看護学分野

氏名 千葉 詩織

このたび、貴財団からの奨学金支援を賜り、博士後期課程 2 年次において学業を遂行させて頂き、深く御礼申し上げます。

2 年次後期における履修状況及び研究活動について完了報告を致します。残りの在学におきましても、精進を重ねて参ります。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

I. 単位履修状況

2 年次前期で「看護科学論Ⅲ」2 単位を履修完了し(中間報告書)、今後 3 年次後期まで、通年で継続履修する「保健学論文研究」8 単位を履修する予定である。履修のための研究活動はⅡ.研究活動で報告する。

Ⅱ. 研究活動

博士後期課程（平成 29 年度～現在）では、タブレット端末を用いた「がん疼痛緩和に向けた遠隔看護システムの開発及び有効性の検討」を行っている。

現在は、遠隔看護システムで用いる基本ソフトの開発を完了し、安全な通信システムの構築を検討し、4 月頃よりフェーズ 1：システムのインターフェイス評価を行い、7 月よりフェーズ 2：無作為化比較試験に移行する予定である。

さらに、並行して介入研究のアウトカムの一つとして用いる「オピオイド服薬セルフマネジメント尺度」の開発及び信頼性・妥当性の検証として、11 月頃より多施設にわたる本調査を行っている。以下に進捗状況と学会発表について報告する。

1. 研究課題について

1)研究課題：オピオイド服薬セルフマネジメント尺度の開発

[期間]平成 29～30 年度

[研究費]安田記念医学財団 平成 29 年度癌看護研究（大学院学生）研究助成

[研究進捗]尺度開発は、段階的に実施している。第 1 段階は、尺度原案作成のためのインタビュー調査(所属大学倫理委員会承認番号 2017-1-1030)より質的帰納的内容分析を行い抽出した項目と先行研究及び文献等から演繹的に抽出した項目より尺度原案を作成した。その後、尺度の信頼性及び妥当性の検討(所属大学倫理委員会承認番号 2018-1-292)を開始した。第 2 段階として専門職集団に尺度原案について CVR を用いて内容妥当性を検討し原案を洗練させた。第 3 段階として対象となる患者に表面妥当性の評価を依頼し原案をさらに洗練された。現在は、2018 年 11 月より第 4 段階である本調査を多施設にて開始し、6 月まで実施する予定である。

2)研究課題：進行がん患者のがん疼痛セルフマネジメント遠隔看護システムの開発及び有効性の検討

[期間]平成 30～31 年度

[研究費]平成 30 年度科学研究費助成事業 研究活動スタート支援

[研究進捗]

システム技術開発は、システム構築専門業者に依頼し、身体状況の可視化を用いた双方向型遠隔看護システムの開発に取り組むために、遠隔看護に用いられる基本ソフト開発を完了している。現在は、システム運用に向けてインターフェイスで用いる安全な通信システムの構築を検討している。今後は、4月よりフェーズ1としてシステムのインターフェイス評価を行うため、倫理委員会に申請中である。評価は、がん疼痛緩和に関する専門医師・薬剤師・看護師などの多職種及び実際に使用する患者からのアンケート調査を行い、結果を踏まえてシステムを洗練する。その後は、フェーズ2として7月からの無作為化比較試験を目指している。

2. 学会発表及び参加について

本年度は、以下の学会に参加し研究遂行への学びを得た。

- 1)「第 25 回緩和医療学会学術大会」へ参加し、下記演題について症例報告を行い、緩和ケア治療及び看護に関する情報収集を行った。

演者：千葉詩織、熊谷裕昭、神谷浩平、他.

演題：Personalized Pain Goal を用いてがん疼痛評価を行い疼痛緩和に至った 1 例.

日時：2018 年 6 月 15-17 日

場所：神戸国際展示場、会議場、ポートピアホテル

- 2)「第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会」へ参加し、研究遂行するためのがん治療及び疼痛緩和治療に関する情報収集を行った。

日時：2018 年 7 月 18-21 日

場所：神戸国際展示場、会議場、ポートピアホテル

- 3)「第 38 回日本看護科学学会学術大会」へ参加し、下記演題について研究発表を行った。

①演者：千葉詩織、佐藤富美子、佐藤菜保子、他.

演題：進行がん患者によるオピオイド服薬セルフマネジメント概念の検討
—インタビュー調査より—

②演者：霜山真、佐藤富美子、佐藤菜保子、千葉詩織、他.

演題：慢性呼吸不全患者に対する急性増悪予防効果を目的とした遠隔看護介入効果
—多施設無作為化比較試験—

日時：2019 年 12 月 15-16 日

場所：ひめぎんホール 他

4) 「The 22nd East Asian Forum for Nursing Scholars (EAFONS)」へ参加し、下記演題について研究発表を行った。

①演者：Chiba S, Sato F, Sato N.

演題：RELATIONSHIP BETWEEN PAIN THERAPY EDUCATION AND PAIN INTENSITY IN OUTPATIENTS WITH ADVANCED CANCER

②演者：Fumiko Sato, Naoko Sato, Shiori Chiba

演題：Factors associated with upper extremity dysfunction five years after breast cancer surgery

日時：2019年1月17-18日

場所：Furama RiverFront Hotel, Singapore

5) 「第33回日本がん看護学会学術集会」へ参加し、下記演題について交流集会を行い、リンパ浮腫に関する苦痛軽減のためのリハビリケアプログラムの内容精査を行った。

演者：佐藤富美子、佐々木理衣、千葉詩織、他

演題：乳癌体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの検討

日時：2019年2月23-24日

場所：福岡国際会議場、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡